

日本の公共図書館における携帯サイトを用いた情報発信

小笠原 静華

携帯サイトとは、携帯電話で表示することを想定した専用サイトのことである。近年、携帯電話等の普及によって人々の情報行動が大きく変化してきている。このような状況の中で、今後の公共図書館では、パソコンで閲覧する Web ページの作成だけでなく、携帯サイトで閲覧できるコンテンツの充実や情報発信が必要になってくると考えられる。

そこで、本研究では、日本の公共図書館における携帯サイトを対象として、公共図書館の携帯サイトを悉皆調査し、携帯サイトを用いた情報発信について分析・考察した。そして、携帯サイトの現状を踏まえた上で、図書館携帯サイトのガイドラインを作成した。研究方法としては、文献調査と携帯サイト調査を用いた。

携帯サイト調査の調査項目は、「A 群：携帯サイトの有無（1 項目）」、「B 群：パソコン版からの情報（4 項目）」、「C 群：表示内容（6 項目）」、「D 群：OPAC（蔵書検索）（6 項目）」、「E 群：デザイン（3 項目）」、「F 群：ナビゲーション（3 項目）」、「G 群：ログイン機能（6 項目）」、「H 群：特記事項（1 項目）」の全 30 項目である。調査対象は、『日本の図書館：統計と名簿 2009』（日本図書館協会，2010）に掲載されている公共図書館の中央館，1,355 館とした。調査期間は、2010 年 6 月 16 日から 9 月 12 日の 89 日間である。

研究の結果、以下の事柄が明らかになった。

- ・公共図書館の中央館 1,355 館の中で、携帯サイトを公開している公共図書館数は 744 館であり、全体の 54.9%であった。携帯サイトの保有率は、都道府県や行政区分によって大きな差があることがわかった。
- ・パソコン版から携帯サイトの情報を得ることができたのは、610 館（82.0%）であった。携帯サイトへのアクセス方法として最も多いのは、「QR コード」471 館（63.3%）であり、「対応機種の表示」があるのは 17 館（2.3%）であった。
- ・画像を用いた携帯サイトを備えていたのは、102 館（13.7%）であった。画像の種類として最も多かったのは、「タイトルロゴ」49 館（6.6%）である。
- ・図書館の携帯サイトで提供されているコンテンツは、「休館日情報」435 館（58.5%）、「利用照会」399 館（53.6%）、「利用案内」200 館（26.9%）、「交通案内」74 館（9.9%）、「テーマ一覧」74 館（9.9%）、「レファレンス受付」11 館（26.9%）、などである。
- ・OPAC 機能を提供している図書館は、731 館（98.3%）であり、それらの OPAC 提供館の中で、予約機能と連動した OPAC を提供している図書館は 595 館（81.4%）であった。
- ・文字の色は「1 色」のものが多く、552 館（74.2%）であった。「背景色」が使われたのは 138 館（18.5%）であった。背景が白、文字色は黒のみという図書館が多く見られた。
- ・図書館携帯サイトは、ページ数が少ないためか、凝ったナビゲーション機能はそれほど見られなかった。
- ・パソコン版からのリンク等で携帯サイトの存在が確認できるものの、携帯サイトには個々の図書館名のないサイトが、38 館（5.1%）あった。このほかにも、連絡先やログイン方法など、最低限の情報が記載されていない図書館の携帯サイトが存在した。
- ・日本の公共図書館の携帯サイトは、発展段階といえる。図書館は、各館の情報提供の方針に基づいて、適切なコンテンツを備えた携帯サイトの公開を行う必要がある。既に携帯サイトを公開している図書館では、利用者との対話や情報ニーズを踏まえ、レファレンス受付やパスファインダーなどの情報コンテンツをさらに備えていくことが望ましい。
(指導教員 大庭 一郎)